

特
凡呂 4
1606
卷 5



洛陽名取集卷之七目錄

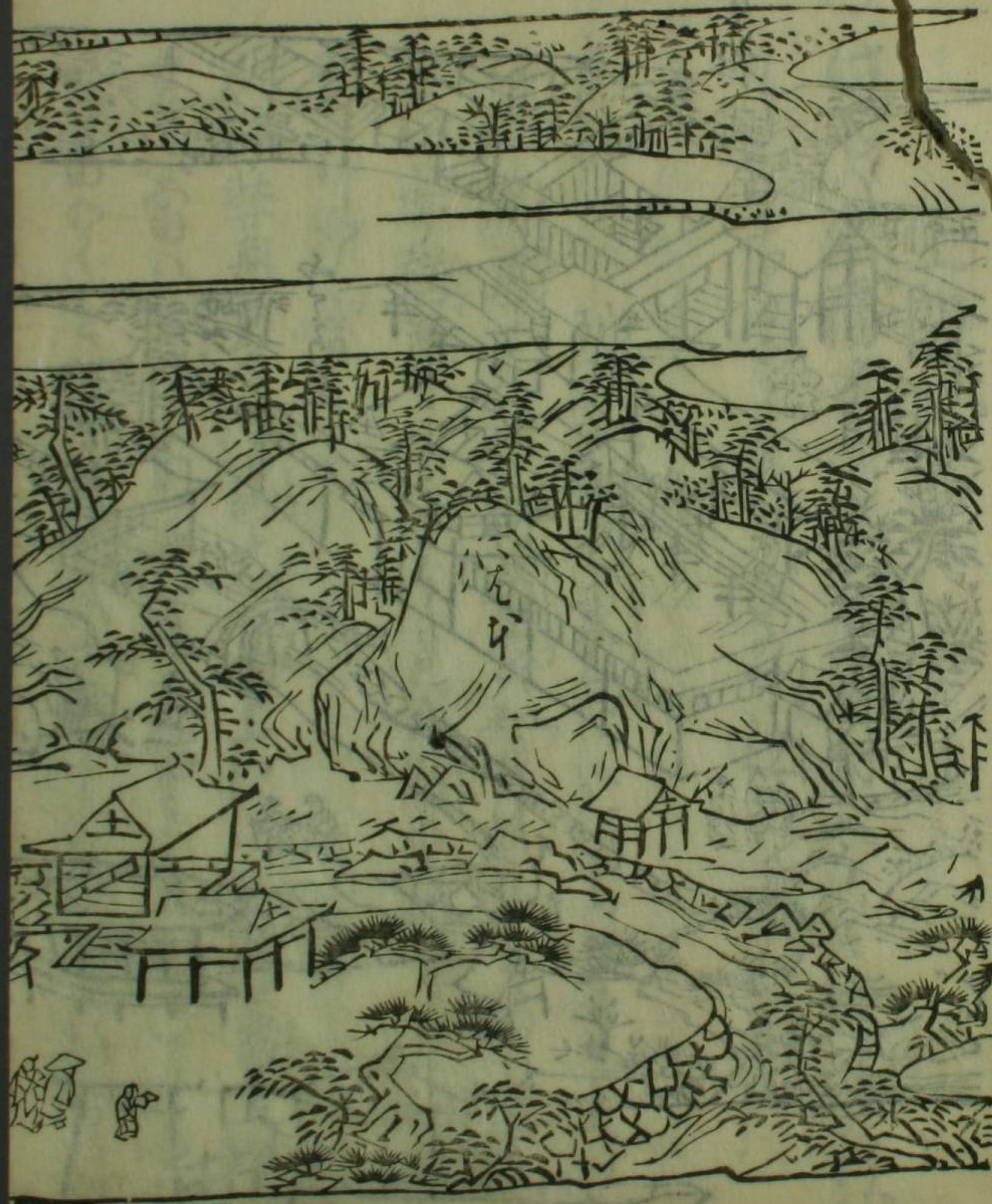
上野原
神山
片倉杜
松崎
龜山
智水
音水
鬼城

新流
賀茂河
大宮杜
橋本
小丸山
大魚
瀬井清水
志津原

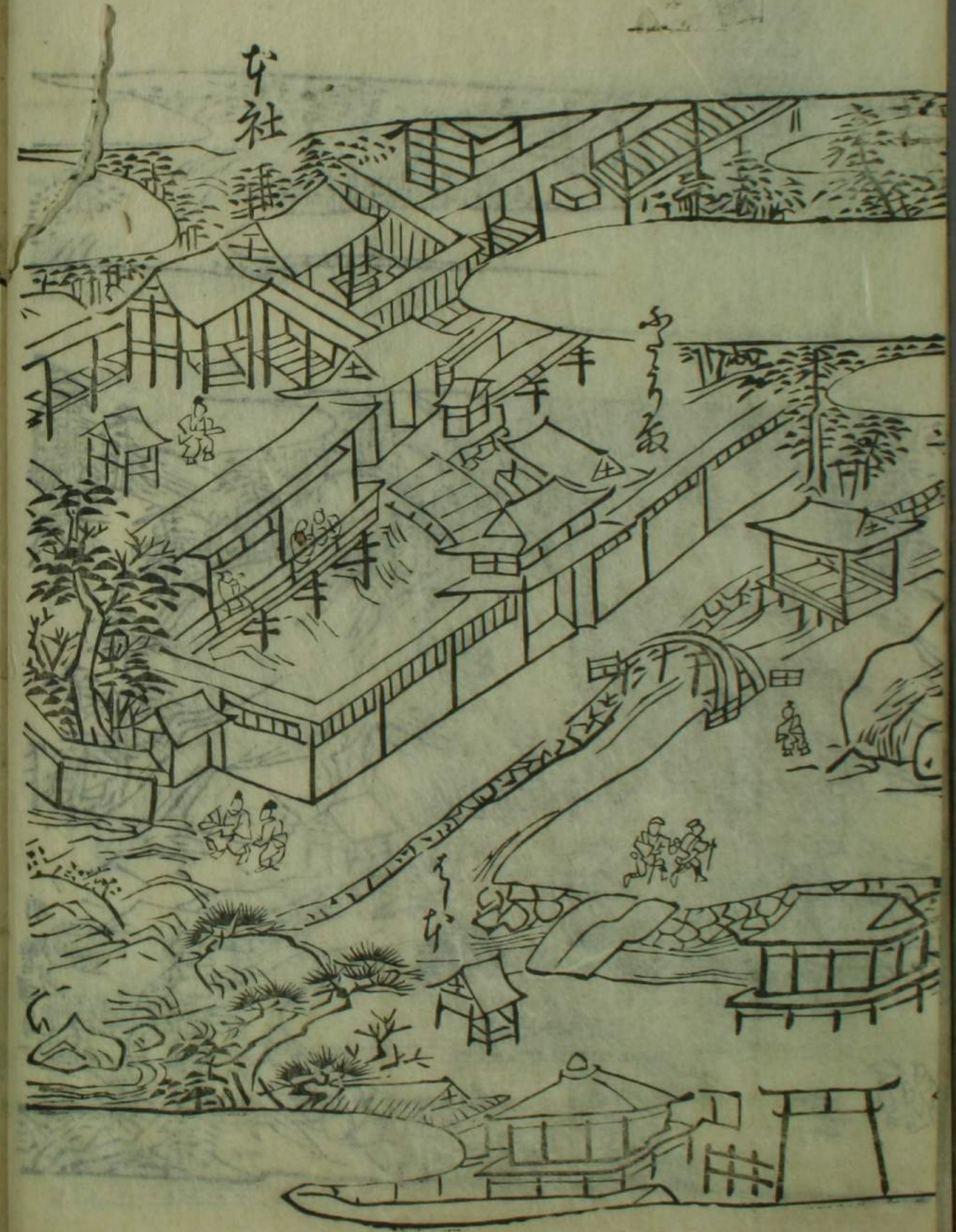
新流
岩中
長谷
岩倉
明神谷
末迎流
芥生堂
野

一
橋
八
小
八
瀨
清
水





上賀茂



上賀茂

○げふ。洛陽らくやうより小や。里村さとむらおろく連屋れんやに
 したさかびくと。守社しやうしゃのまじらや

○本社ほんしや 烈雷神れつらいしん也。東向ひがしむきにたらしぬゆつし。

伊弉册尊いさのみこと火神かみ軒遇のりあひまひ突智つとちはうもつらり
 と伊弉諾尊いさなのみことよこしき。と殿とのやめり。その一紙

雷神らいしんかき

又伊弉册尊いさのみこと脹満はふみ大高おほたか上に八色やくしき乃雷らいなり。
 其八雷やくしき首くびにあらぬ大雷おほらいと。ひのまこと
 火雷からいやくと。殿とのやめり。土雷つちらいと。いづれにゆへ

ひきつら時。人々あはれく。鞠たりどほけり。まらりせり
よ。硯もこのうさふ雪は入く。昔もさ。ゆりけり。
父紙よ。お付きり。操練。さう。花散り。く。庭は
う。ハ。秘む。さ。せ。ね。雪。や。ち。り。み。け。り。せ。
選る。肉親王。社。や。あ。け。り。比。あ。り。向。く。移。る。
あ。く。よ。い。む。さ。く。い。ん。あ。事。な。ま。は。ら。る。ま。よ。
向。く。ま。さ。の。の。ま。さ。く。ご。の。み。孫。子。代。子。乃。奇
み。さ。く。に。さ。く。さ。は。く

○ 秋本相

漁。鱒。一。乃。松。少。子。年。毛。久。一。な。小。使。の。書。で
に。ひ。ひ。を。さ。く。く。鴨。長。明。ま。は。系。に。か。け。て。も

ほ。の。と。お。出。は。お。の。書。乃。ま。は。ま。の。下。の。ま

一言神

○ 是ハ。が。茂。社。の。中。小。一。言。を。お。さ。く。く。ま

○ 勢。長。氏。久。の。小。を。お。さ。く。く。一。言。を。お。孫。濃。宮

ふ。さ。く。く。く。た。の。ま。は。い。ま。さ。く。く。ん

神山

○ け。山。ハ。が。え。ん。山。の。云。を。さ。く。く。ま

後。社。御。流。水。製。に。お。さ。く。く。ゆ。さ。け。く。く。現。推。世。カ

○ 今。道。志。さ。く。く。く。後。成。に。お。さ。く。く。一。言。を。お。さ。く。く。ま

時。の。ま。さ。く。く。ま。は。い。ま。さ。く。く。ま

賀茂河

○けほるの賀茂社のまへ

定家ささのふ稚は稲にたうどあさ花乃ゆまつ
けくまふうらちたびくかとの川風あふ
かよふ河をささ敷ふのかふ鳥鳥れとの現
よさ流也あしん

○岩本 本社乃東のつる那糸在魚業平

試いしおたり

吉水和尚まのに。月夜めく花をささあし古
乃やさし東人かろくにほりしとらあま。

はらばらるるるるるる

○橋本 本社へゆりてり。左のつる那ふ

楠くゆるともや。藤魚實方より

○是揃 五月朔日や

えろ子四足の馬はさきくは園とこと新
おはささめ。一足げうけさせ。其速は見
もつる。はくく二足なまぐせけさせ馬場中
ま小まおはて勝負はよりるるらつ

競馬 五月廿日や

初日乃式にささるるるる。糸士未黒乃さ
は將衣束はりつら。おはささく勝負とささむ

本庄。人々あつてひさびさけしめあつた。あつた
は賀をね尾社司にあつてひさびさけしめあつた。
は祭。欽明天皇よりと始つた。又申目。関白
乃賀をね尾社司に事をもさ。留公事。振徳。た
り。又諸。うら。に。祭。あ。つ。た。に。栄。雅。の
ま。に。ち。も。あ。つ。た。と。し。は。應。の。ま。に。あ。つ。て。ひ。さ。び。さ。け。し。め。あ。つ。た。

臨時祭。法成寺。お振政。入道。の。ま。に。あ。つ。た。と。し。は。應。の。ま。に。あ。つ。て。ひ。さ。び。さ。け。し。め。あ。つ。た。
又。に。御。ち。と。ま。に。あ。つ。た。と。し。は。應。の。ま。に。あ。つ。て。ひ。さ。び。さ。け。し。め。あ。つ。た。
も。あ。つ。た。と。し。は。應。の。ま。に。あ。つ。て。ひ。さ。び。さ。け。し。め。あ。つ。た。

片岡社

○は社の上賀祭の川山よま

出式部。ま。に。郭。ま。ま。の。に。あ。つ。た。と。し。は。應。の。ま。に。あ。つ。て。ひ。さ。び。さ。け。し。め。あ。つ。た。
政。平。が。ら。ま。ま。の。に。あ。つ。た。と。し。は。應。の。ま。に。あ。つ。て。ひ。さ。び。さ。け。し。め。あ。つ。た。
我。は。片。岡。の。社。に。あ。つ。た。と。し。は。應。の。ま。に。あ。つ。て。ひ。さ。び。さ。け。し。め。あ。つ。た。

大宮社

○は宮の賀祭。あつた。と。し。は。應。の。ま。に。あ。つ。て。ひ。さ。び。さ。け。し。め。あ。つ。た。

長森

○ 山あはれなるまゝうらふ三丁町にうらふと東山ののこりや
當太上天皇の遊殿は宮ありまうぢぢく作
新ころりり

みはし乃畧のちかひあはれくも合ふよめ
ゆいりりどよめりいれまはる御殿のついで

八塩岡

○ けあは長谷合乃うらふいなり

顯季まりに。浅う思ハ一乃畧れぬま
なふふちやあはれあはれん顯照の
にけりりめあはるまもけりや八塩れ
又長房ハお

乃ち一乃のまあ山ははらうや山娘のま

りまての神とまににちああはら

かんとくに思ひやれはるはまてを

かんとくに思ひやれはるはまてを

水ひきに瓊花はる糸乃化はるにまに

けあ大上皇幸にいつるあはれを
なりしあはれつはあはれを
りくしりくしりくしり

松崎

本有寺中納言藤利創之

○いさゝかむらとよや 治經平町
顯季のまの友の白とふくしーるにたれまう
海ころもつやもさむ乃あころるれんてに家
まのにまの海にぬす室お天皇乃平をれ
ためーととろあぞまぬれ

橋井里

○けりいね河のうらたをるをよや
張多のまのい。見わつせにまよ乃まのりたふれま
まのしあたるまのく橋井の里西行のまに
孫芥はし澤乃水まの日は海くまぬれ
わがからくまのま

岩倉山

○けいおんおんまうらうらうらや 治經二里うらと
拾遺集に大中臣能宣のまよまのまのらとけ
まのらうらまの代まのうらまののまはん
とまのらうらまの又権中納言の頼資のまよまの
石を心乃日つしまのらうらまのや中まのらまの
れん

- 帆坂 毛いね河と岩倉との交なり
- 龜山 岩倉岩乃中まのら
- 小藏山 けりいねのまの余のまの城のまのら
- 朗峰谷 岩倉岩乃中まのら

そつとあつたといはば一たにいさふ
幾つと一といはばどなたのいさふつと
あつたなりとつとつとつとつとつとつと
甲斐族といはばつとつと

今年こゝねの物秋ものあき上かみ自實相院じじつさういん門主かどぬしさつふしとつとつと
坊ぼうゆんゆん又また又また我われとつとつとつとつとつとつと
小村こむらのつとつとつとつとつとつとつとつと
神かみのもも井いのつとつとつとつとつとつとつと
おくおく又またつとつとつとつとつとつとつと
めくつとつとつとつとつとつとつとつと
あつたなりとつとつとつとつとつとつと

たつとつとつとつとつとつとつとつと
そととつとつとつとつとつとつとつと
せにせにつとつとつとつとつとつとつと
とつとつとつとつとつとつとつとつと
日ひのつとつとつとつとつとつとつとつと
わつとつとつとつとつとつとつとつと

- 明神あきみじん 左ひだりの内にうちにつとつとつとつとつと
- 智ち知ち水みづ けつとつとつとつとつとつとつと
- 之これが寺てらのつとつとつとつとつとつとつと

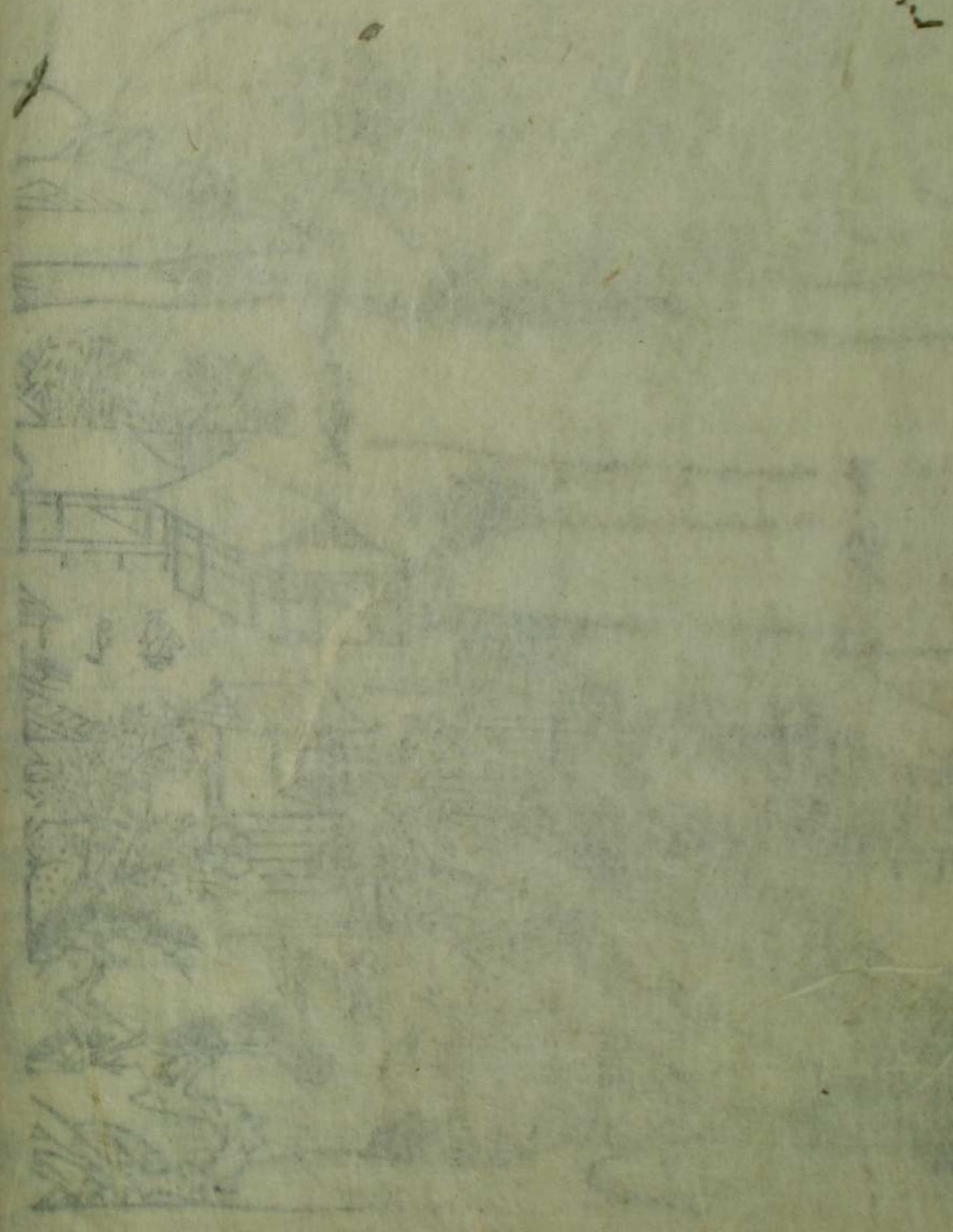


からすの里

大原



大原



大魚

○はま、都城よりほど三里餘水のうきたつり
村なるびたろ下たつり

和泉式部吾に世はうむくうさ何れをまね
る一太もこのはなほらうらまや。寂然法師は星
にまをける時めらるるさてはわたりがふ
人もあはれくへとはり且庭まの白雲。雅房
いよに流居侍りく時をを月之時の
より居れ表とらその人よんせまやと海せ
んをうらうとくはまもすうられを楹に
けりたつり。鳥乃くけまよあらなるがせまらる。

月とひしふてはるるにまはるるにまはるるにまはるるに
あくとほんねとてはるるにまはるるにまはるるに
ふかきとて感ほるるにのこひあり

二月上乃卯日い星の教とてくるとまはるるに
せは日とてあまの極へつふてまはるるに

来迎院

○は院は後舟宮りあつてゆとたつてびや。法華法
師の開創たつて世にこの院の作りとて證據
乃に徐院やふんて人々たつてまはるるに
ゆとてね

秋良忠の庵非富回乃人也。齋山に登りて台教
法長賀よとて密灌と永無にけり。兼座乃初め
大魚の舟とて来迎院とてけり。結界法とて
通とてに付つてね。待賢皇后乃宮人。孝の院
にまつてを同轉とてあつて。婦人惠恵
乃あつてとてとて。精進よ入とてあつて。び
縁のこさんあつてとてとて。つとてあつて
ふつとてとてとて。固志のりとてとて。あ
ゆつとてとて。法性とてとて。号とて
八字文殊の法。法性とてとて。つとて
庭との大なる愛とてとて。獅子とてとて。つとて

さうしつをいかに一日に人ごころに母に執通念
佛ごたのめふらふおわつりけをいしし
空海よをいれらめんといつをりり母にわあしこ
ろへん。鞍馬守の毗舎門天たのうもいしをく
そのまういれらるごころに母に母に母に母に
念仏とごころに母に母に母に母に母に母に
もいれらる。天仁二年。来迎院成就。顕客とご
るん。声月徳喫とをいれらる。天養二年二月一日
に亡逝。一々うらなひごとく母に母に母に母に
大勢経津彦と一夜。如も母に母に母に母に母に
子孫に子孫に母に母に母に母に母に母に

○無明橋

来迎院のおなりつ橋や。世の鏡に
かたしつが飛鳥のそとごころに橋はわらとを
いれらるん。いふことなり。とばば少いよ。無明橋
つと見おろしゆんとごころに母に母に母に母に母に
誠に六根のなめたのうとごころに母に母に母に母に母に
ころん。ごころに母に母に母に母に母に母に
眼もいれらる。やあ。いれらる。いれらる。いれらる。
も。ごころに母に母に母に母に母に母に

立回る無明

○いせの橋舟宮の援なり

小登心のごころに母に母に母に母に母に母に

我のめづるはくはく。又都人（みやこびと）のむかしに
喜（よろこ）びのそとに、くはく。くはく。くはく。くはく。くはく。
くはく。くはく。くはく。くはく。くはく。

瀬井清水

○けしん。大原のくはく。くはく。くはく。くはく。くはく。
業平朝臣（たけふら）に、くはく。くはく。くはく。くはく。くはく。
あきく。くはく。くはく。くはく。くはく。くはく。くはく。くはく。
歌よ。大原や。せう。せう。せう。せう。せう。せう。せう。せう。
やく。やく。やく。やく。やく。やく。やく。やく。

芥生里

○けしん。大原のくはく。くはく。くはく。くはく。くはく。
世はく。くはく。くはく。くはく。くはく。くはく。くはく。くはく。
くはく。くはく。くはく。くはく。くはく。くはく。くはく。くはく。
くはく。くはく。くはく。くはく。くはく。くはく。くはく。くはく。
くはく。くはく。くはく。くはく。くはく。くはく。くはく。くはく。
くはく。くはく。くはく。くはく。くはく。くはく。くはく。くはく。

小野

○けしん。大原のくはく。くはく。くはく。くはく。くはく。
亭子（ていし）のくはく。くはく。くはく。くはく。くはく。くはく。くはく。くはく。
に。くはく。くはく。くはく。くはく。くはく。くはく。くはく。
くはく。くはく。くはく。くはく。くはく。くはく。くはく。くはく。
くはく。くはく。くはく。くはく。くはく。くはく。くはく。くはく。
くはく。くはく。くはく。くはく。くはく。くはく。くはく。くはく。

秋まらふみ多しとめさむる向ふはしむ
りへそ接らん此おまふ
為雅朝長音似き 空は雲しけりく又
の目ももこもらむにゆらさけりてよげまよ
まらうて花さけりるをわく 春宮大ま道個母
乃之つよ。新らう事し明日はあつものけりされ
れあそんまにらんらんめり

○ 藤魚 小野のうらたうら

俊成とこのよ小野しや橋戻りまよらうら
瓜本とせよはりらうら 家澄らうら
藤魚とさういふら小野に堪ぬ小けりあそ

修學子奇

○ けふはこころうらうらうのこや

其のつこい智多僧とく 不動修仰の傍居
静とく守たつこ今ん在家とたうらびたり
里るあま

高野川

○ けふはけしるもの小ぢ糸のみらや

八瀬

此下ハるせをまらわらうらこころは二里程や
村あはけりなむこころ
は月如の辰日けしるのみあそくち糸と銀ひ

をけいふ鳥井のおもく馬るしひをい
と好くした興をたうせり

元禄法師のうら目にうつくすこせしげ

ぬまにうやせの回ころうぬばこま

めりしよのうしにこのおのみちのうらうら

かどかいつと嫁たすど女れどく踏わけど

おつおしうとさこころん侍りまぬ

けいしよ釜風よこくくくくくくくく

病のぬのこくくはるるひみえんがうあ

さめわしにさるくゆり

鬼城

八瀬乃西小にまべりものも物おくら

しきあまを也どくのうらに鬼名こくねせ

りへるる有せよそとらん酒曲三重ぶが良

とくぐついなら

作鬼城乃河やしこげん人の繁舌よのせ

かゝのまぶしひんたのまをふらまはるくそ

かゝし真眼系人のんまく英舎とるべし

家語にあうハセふふ乃夢翹魁水の龍園家

おの積年ハらまを雑録新話こし賈誼が文

系よ答解せしハふらうらうらく寛石

か怪紙あやしまぶらうらりく韓金

八森終らりくく。土石風雷乃於以の之。院
備ハ社樹と云らして鬼以信せ次。さるも無鬼
湯と他多う。線部花の真ふよに好。多。其のつ
かしくや。後多。世り鬼以。院
既如。廁中。秘中。散が。灯下。好の。く。大。集。の。鬼
鬼と。ま。づ。あ。雷。辨。方。信。安。か。や。漢。帝。の。学
既。さ。さ。さ。に。様。ト。鄒。湛。が。玉。中。の。人。に。遊。一
た。な。ど。い。ふ。理。を。ゆ。ん。も。う。た。て。て。馬
公。亮。が。花。の。字。と。う。に。温。嶠。が。摩。訶。を。や
好。ま。か。い。と。お。ゆ。る。も。う。と。黎。丘。人。が。真。子。と。ら
せ。終。も。い。ふ。ま。い。ら。ん。へ。お。う。り。悔。せ。つ。た。ら。さ。る

ねんのうへ。も。乃。こ。に。い。ふ。さ。ら。さ。る。ぶ。く。び。を。ゆ。
後。が。連。城。の。中。の。く。鬼。を。ま。ま。さ。な。さ。る。
う。こ。い。見。を。佳。集。と。く。搜。出。記。後。せ。り。さ。う。と。わ
ら。い。く。頓。況。ハ。戴。氏。の。廣。異。記。の。序。也。蜀。帝。乃
杜。鶴。突。帝。の。精。衛。青。鳥。白。澤。中。の。類。以。し。石
必。の。怪。説。け。と。狐。媚。鵲。噪。鳥。鳴。雛。入。さ。あ。び。
妖。誕。の。惑。試。い。め。程。文。也。ハ。高。聖。伯。明。の。向。も。て
い。く。風。伯。雨。師。以。ぬ。の。ま。い。ら。ん。と。う。く。さ。う。く。造。化。の
顕。微。と。か。く。人。が。と。く。ゆ。か。し。ん。事。以。お。り。ん。也。
神。ハ。幽。泉。深。壑。聖。怪。集。の。怪。録。祥。異。記。家。怪。録。滿
洲。録。が。り。と。云。書。而。よ。ハ。奇。怪。聖。異。ハ。以。あ。ら。せ。つ。と。

不取例不見形や張巡の厲鬼のなる人
厲懼の忠義鬼のなる人
とてはぐりつとて怨路たのつと

志津画

○け里の犬石の山あれたや

くしと先は賤魚少の石伝うとと本三つよ
宿とあくたつにじつんたは志づいともや静
たつてぐんぶあわとつとつと名とてつとありあり
静魚少つとつと。大虫の群らつとつと。あは
静あつとつとの下にさつとつと。あつとつと
張國成とつと人つとつとつとつとつとつとつと

余の志もつとつと者りつとつと。張國成とつとつと
とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30

寂光院



寂光院

○此院は建礼門院乃清菴室の古蹟なり。東
 へさうく小茅の堂也。中間は長カスレド
 う乃地藏の堂なり。具右のうに門院は
 由木新なるなり。川のけく少納言通憲信西
 が娘阿波内侍の墓なり。堂のうに石塔あり
 けて門院の墓なり。苔ひひるる石塔あり
 けり。おけ菴のうに乃のうにせぬれん。又
 平信長もゆ娘の建礼門院あり。とてかり
 居たり。まはるる。とてに屋のうにまはるる
 勤しむる。とてぬ。

建礼門院ハ高倉院の後妃安德天皇の御母
相國清盛入道乃姫子也。文治二年甲子
九月乙未一日。吉田よりけり。建久二年二月中旬
世孫の怒。治久二年甲子。

誠にあり。治久二年甲子。治久二年甲子。治久二年甲子。
山乃。治久二年甲子。治久二年甲子。治久二年甲子。
羊躑躅。治久二年甲子。治久二年甲子。治久二年甲子。
猿の。治久二年甲子。治久二年甲子。治久二年甲子。
一。治久二年甲子。治久二年甲子。治久二年甲子。

が室ハ。治久二年甲子。治久二年甲子。治久二年甲子。
於垣の。治久二年甲子。治久二年甲子。治久二年甲子。
了。治久二年甲子。治久二年甲子。治久二年甲子。
より小麻。治久二年甲子。治久二年甲子。治久二年甲子。
雨。治久二年甲子。治久二年甲子。治久二年甲子。
ゆ。治久二年甲子。治久二年甲子。治久二年甲子。
り。治久二年甲子。治久二年甲子。治久二年甲子。
り。治久二年甲子。治久二年甲子。治久二年甲子。
り。治久二年甲子。治久二年甲子。治久二年甲子。
り。治久二年甲子。治久二年甲子。治久二年甲子。

穢跡心しじせきこころにむねをささぐりてわが心かめしむるのわ
ほつと移うつりひく。口くちひいさや深山しんざんのおく小住せむい居
してや井いの月つきをうらまにうんとうかきふ
はきおりにまじりて今もそのま
のなげぶうつしぬげとれども余あまはなま
ふ人の儼げんしとざれりてくちあき感慨かんがい
付つかやのふ

曬清水あつみづ

寂光院じくくわういんの西にしのつと二所ふたところなるより

小住せむい池いけ

素性そせい法師ほうしのい水みづをりわげら乃すなは流なが水みづ

七十五終

塵ちんとくくは月のひかりうつや。又
良暹りやうぜん法師ほうしのよ移うつりひくや月つきを流ながすん
ちまや曬清水あつみづ住すまかううい。とまあつま
まじりてまよあていあらあまのまじりてく
みわたりてあまをらむ。まじりてく
よらむあまにうらむ。まじりてく
ん

